

「いちまいいちまいにこめる想い」 「横浜スカーフ」の伝統を継ぐ 世界最高水準のシルク捺染技術

丸鈴産業

今から150年以上前、安政6年に横浜が開港されて輸出が盛んになった生糸から、伝統工芸の100%シルク「横浜スカーフ」が発祥した。水のきれいな帷子川・大岡川周辺の捺染工場はかつて100社近くにのぼったが、デフレ・低価格化の進行もあって、現在では20社弱へ減少した。この状況を打破するために、横浜市も地域ブランドとして育成・活性化のために力を注いでいる。

昭和34年創業の丸鈴産業（横浜市旭区川井本町、鈴木幸夫社長、045・951・1709）は、「横浜スカーフ」の歴史ある匠の技術を守り抜き、服地、ハンカチーフ、スカーフ、ストール、風呂敷、ネクタイなどに手捺染で柄染めプリントを行っている。1色ごとに版を起こし、幾重にも重ね1mmのずれも妥協しない職人技。1枚1枚人の手による丁寧なプリントは圧巻である。大量生産では表現できない鮮明で豊かな色彩、日本人らしい緻密で繊細な仕上がりは、海外の有名ブランドも惚れこんだほどだ。

また、自社ブランド「横濱ハオリ」は、歴史や伝統の中にも新しい時代に合ったシルク製品にこだわりの、水濡れに弱いシルクの扱いにくさを軽減し、軽量で保温性に富む素材の良さを前面に出すブランドとして削り上げている。



「横濱ハオリ」製品の数々



同社自慢の社員たち

「確かに加工賃は、量産品に比べコスト高ではある。しかし、当社の社員一人ひとりの技術があれば、必ずお客様は帰ってくる。当社に“人”がいる限り、お客様は当社を頼ってくる」と鈴木社長は、胸を張って語ってくれた。同社はこれからも、横浜の地場産業 150年の洗練された技と心を次代に引き継いでいく。

ぜひホームページ(<http://www.marusuzu.biz/>)で、「濱染め」の美しさを引き出す同社の技術をご覧ください。